

令和7年度 第3回成田市男女共同参画計画推進懇話会
会議概要

1. 開催日時

令和8年2月9日(月)
午後1時30分～午後3時5分

2. 開催場所

成田市役所 3階 第二応接室

3. 出席者

(委員)

佐藤理恵子会長、村島義則副会長、城順子委員、佐久間美奈子委員、滝田浩美委員、
内田俊文委員、谷亮子委員、鈴木裕士委員、藤崎貴之委員(代理：高森主査)、
西崎祐一委員(代理：那須指導主事) 佐藤弘明委員
※欠席者 古山陽一委員、加瀬文江委員、平山祐子委員、菅谷友則委員

(事務局)

谷崎部長、平岡課長、菅澤主幹、池田副主査

4. 議事(要旨)

(1) 第5次成田市男女共同参画計画(最終案)について

事務局より、第5次成田市男女共同参画計画の最終案について、前回懇話会での指摘事項への対応の他、修正箇所及び12月市議会定例会、教育民生常任委員会での報告とパブリックコメントの結果について説明をした。

5. 質疑等

主な質疑・意見は次の通り。

議題(1) 第5次成田市男女共同参画計画(素案)について

(内田委員)

P45、成果指標一覧の8番、市職員の育児休業取得率についてだが、目標値が85%で検討中になっているが、「増加」としても適当ではないか。

(事務局)

8番の成果指標については人事課が作成している成田市特定事業主行動計画の中の目標に合わせている。現在策定中であり、目標値は97.4%を超えて100%になる場合もある。

(佐藤委員)

同様に45ページ8番、男性の育児休業取得率について、令和6年度は97.4%で今後増減があるかもしれないが、目標を100%に設定できないか。

(事務局)

国の男女共同参画基本計画において、男性の育児休業の目標を「2 週間以上の継続取得」と設定していることから、それらも踏まえ今後検討していく。

(佐藤委員)

1 日でも育休を取ったらカウントされるなどもあることから、目標の基準設定はオープンにした方がいい。

45 ページ 9 番について、各役職段階の女性職員割合について、例えば役職ごとの年齢別の男女比は出せないか。明らかに男性が多い年齢層なのに、女性の割合を増やすなどは逆差別になる可能性もある。分母となる数値もあると、実態が見えてくるのでないか。

(事務局)

概ね何歳ほどで係長になるかはわかるが、分母としての年齢ごとの集計はむずかしい。

(佐藤委員)

係長の女性割合は目標が 40%となっているが、分母となる数字があいまいだと、能力に関係なく、女性比率を上げることになると正しく評価されず逆差別にもつながる。ひと工夫をしてほしい。

(事務局)

今後、人事課と協議を進めていく。

(内田委員)

45 ページ、成果指標 5 番、審議会等への女性の登用率は目標 40%で、6 番の女性委員のいない審議会等の数を減らす目標は 0 になっている。地域社会の長年テーマになっているが、審議会は委員を募集しても、その募集が広く知らされていない。

市議会議員になるには選挙があり、わかりやすいが、審議会委員はいつ募集されるかわからない。やってみたいと思う人に応募してもらう具体的な手段を提示しないと数は増えないと考える。

具体的な手段として、成田市総合計画審議会で協議すべきと考える。総合計画審議会で話し合ったことを懇話会に提案してもらい、懇話会で話し合うことができるのではないか。

(谷委員)

この懇話会は、どんな意義があり、どんな活動をするのか。何年も参加しているが、数値ばかりを見て評価している。数値にこだわって評価だけを重点的にやっているが違うと考える。

男女共同参画の意識を高めるために、何をしたらいいのかを考えることが大事ではないか。市の中に男女共同推進課などを作ってみてはどうか。

先日、市議会だより「みんなのなりた」読んだが、議会報告会で遠山公民館に出向き、いろんな話を市民から聞いており、参加者からはとても良かったとの感想があった。テーマに多様性社会もあり、男女共同参画とも関連がある。

このように外に出て行って、市民と触れ合い、意見を聞くなどの活動することが大事と考える。懇話会は数値にとらわれて評価ばかりを気にしている。評価も大事だが、その他にやることがあるのではないか。

(事務局)

審議会への女性の登用については目標値 40%と設定しており、審議会の委員の推薦などを依頼する際に、数値目標、女性の参画拡大を進めている事、多様な視点による運営などの利点を伝

えて依頼している。

また、登用しやすい環境の整備として Web 会議の導入や、会議の時間帯の考慮、託児の開設などを進めている。女性の登用率は単なる数値の問題ではなく、多様な視点を政策に生かし、地域全体の個性を高めていく取組みだと考える。女性登用への理解を求めただけでなく「ともに地域をつくり、よりよい政策をみんなで考えていこう」など女性の登用が進むよう、意識を醸成していくことが必要と考える。

また、審議会について成田市総合計画においても位置付けられており、内容によっては話し合っているが、まず懇話会で意見をいただき、また計画の策定にあたっては庁内の部長、課長が出席する策定委員会・検討部会を設置しその中で検討している。

数値化できるものは成果指標を数値化し、目標を設定することで結果を客観的に把握し、評価することも必要だと考える。数値だけにとらわれず、本質を見のがさないよう、数値を設定するまでのプロセス、経過が重要であり、取組みについて数値目標の設定まではいかなくても、話し合いの中で何が課題であり、何が必要かを一緒に考えていくプロセスが重要だと考える。

男女共同参画計画は、全庁的に関連する課が様々な政策を掲げ、進めていくものであることから、今後も庁内関係各課との連携やプロセスを大事にして進めていく。

(谷委員)

男女共同参画は、ジェンダーの他に子育て、防災など関連する分野が多数あるが、市民協働課の担当職員 2 人だけなのは、男女共同参画に対して軽視しているようにも見える。もう少し人数を増やすことできないか。いっそのこと、防災や保育、教育などの関係職員を入れて、男女共同参画課をつくってはどうか。

県の男女共同参画地域推進員会議に所属している自治体の担当者も、1 人か 2 人であることから、行政が男女共同参画を軽視していると感じてしまう。

(事務局)

男女共同参画の担当職員の 2 人のみで取り組んではおらず、計画の策定にあたっては、庁内の各部長が委員となる計画策定委員会を設置し、担当課が関連して策定している。

また、担当が当課のみとなると、担当する当課だけがやればいいという意識になりかねない。取りまとめは市民協働課でおこなっているが、全庁的に男女共同参画に関連する施策があり、各施策の担当課において施策を進めている。

策定委員会での各部、各課からの意見により、計画に追加する事業などもあり、全庁として男女共同参画に取り組んでおり、その取りまとめをしているのが、市民協働課男女共同参画係である。

(谷委員)

43 ページ男女共同参画の視点からの防災対策の推進について。自然災害はいつ発生するかわからないことから女性視点の避難所対策などは重要であるが、文章を読むと具体性がなく、他人事にとらえているように見える。

「課題方向性」についても、当たり前のことが書いてあり「啓発の必要がある」など抽象的な言葉ではなく、「何かあったらすぐにやっていきましょう」などの具体例が一つぐらい盛り込まれてもいいのではないかと考える。

(内田委員)

市において市民協働課の役割は、男女共同参画計画を策定し、庁内各課の持っているその部署関連する分野を計画に組み入れていく。男女共同参画は国の法に基づいて進めていることから、市のどこか一つの課が全部担当するわけではなく、市全体の業務に関連していく。それを取りまとめているのが市民協働課ではないか。

計画の進行管理は担当課が設定した目標に対して中間報告をしてもらい、その内容について意見を提示していくものと、と理解している。

(事務局)

43 ページの防災視点については、市の地域防災計画において男女共同参画の視点を入れた防災対策や、方針・意思決定の場への女性の参画拡大などに取り組んでいる。

(内田委員)

45 ページ 10 番について。保育園等の待機児童数について。現状 17 人の待機児童がいることについて、成田市で雇用を予定していた保育士がより賃金の高い他市に流れてしまい、保育士が不足することで目的が達成できないが続いている。保育士がより賃金の高い都市部に流れてしまうことが往々にしてあることから、何と対策をできないものか。

待機児童をゼロにすれば、母親が働くことも出来るし、能力があれば管理職になり女性の地位の向上にもつながると考える。

(事務局)

市は保育士の賃金引き上げについて重要と考えており、私立保育園の保育士に対し給与の上乗せとして「なりた手当」を支給している。また、継続した勤務に対して給与に反映できるような制度もある。自治体間で保育士の取り合いにもなっていることから、市としても長く勤めていただく取組みを実施している。

(事務局)

45 ページの防災対策について。今年度 7 月 12 日に男女共同参画講座として、女性の視点からの防災対策をテーマにワークショップを開催した。講師として、減災と男女共同参画研修推進センターの共同代表 浅野さんをお呼びした。

講演では阪神淡路大震災や東日本大震災などの被災地の実情として、様々な立場による異なる避難生活において、男女共同参画を含む、多様性の視点が不可欠であることを講演いただき、後半は、避難所でのめごと困りごとのワークショップを行った。また避難生活に女性の視点をいれることで、男性の過剰な責任感による心理的負担の軽減にもつながるとの話もあり、参加者からの高い関心があった。計画に入れてはいないが、啓発につながる事業として実施している。

43 ページについては、男女共同参画の視点として、女性や高齢者子育て世帯などの多様な立場に立った防災等の追加について検討はできる。

(谷委員)

以前防災に関連して HUG というワークショップに初めて参加したところ、避難所運営について、カードを使った予行練習のようなもので、大変参考になった。このように具体的な取組みをしてもらいたい。

また、31 ページの現状をみると、区・自治会長の女性の 5.2%から 8.8%と増加しているが、どういった理由か。

(事務局)

増加した明確な理由は不明だが、区・自治会の運営に女性や若者の視点を入れていくことは地域づくりの活性化につながる旨を啓発している。

(村島副会長)

地域の中でも、当たり前のように女性が区長を務めることについて意識が変わってきているのは確かである。また、区・自治会を地縁団体として登録するにあたり会則なども整理していくことで、運営が整理され、オープンになっている。

防災対策については、地域の避難所運営委員会の運営にあたり各地区で自主防災会を設置しており、その中に女性が参加していないと成り立たない。女性が参加してきていることで意識が高まってきていると感じる。

(谷委員)

私も地域の防災や避難訓練に民生委員として参加しているが、地域の避難訓練に市の職員を派遣してほしいと感じた。今月また参加する予定だが市の職員に来てもらうことで、本当に地域と密着していると感じる。

(城委員)

45 ページ、6 番女性がない審議会について。審議の公募の状況や女性がない審議会などの情報が一覧になっていると女性がチャレンジすることもあると考える。探している人は見つけることができるが、市民に興味を持ってもらえるようにするには、「見える化」することが重要と考える。

女性がない 6 つの審議会についても継続してそうなっているのか、今回だけなのか色々な原因があると思う。

また、Web 会議システムの導入や託児サービスの導入はとても良い。子育て世代や仕事をしている人は参加しやすいと考える。今後は導入する審議会は増えていくのか。

(事務局)

本懇話会についても Web 会議の検証はしているが、会議の内容などにより公開について慎重に考えながら進めている。全庁的にも進めていくことになれば、タイミングなどもあることから今後検討していきたい。

(城委員)

この懇話会に参加しての感想だが、先ほどの防災対策の話など自分たちに置き換え、フィードバックする必要性を感じた。また、自分が関わっている団体や組織に会議での意見を伝えていくことが委員の一人としての役割だと、谷委員の話を聞きながら自分の中に落とし込んだ。

(事務局)

女性がない審議会について、令和 7 年 4 月 1 日現在で 6、昨年も 6 であり、その前は 7 となっている。その審議会が、どのようなもので、性質上女性の参画が難しい、などの協議を進めていけばと考える。

本懇話会の進め方についても、資料や事前の準備などでこの場を有意義に活用し、議論を深めていければと考える。

(事務局)

審議会における女性の登用状況については、庁内 55 の審議会の状況について毎年 4 月 1 日現在の数値を、市ホームページにて公開している。また、先ほど指摘のあった女性がない 6 の審議

会については、コンプライアンス審議会、行政不服審査会、私有地の管理等に関する審議会などがあり、委員数が3人から5人で弁護士、学識等を有するもの等で構成されている。

充て職により市長、副市長、部長等が委嘱されることもあり、充て職の見直しについても、庁内各課に依頼している。

(佐久間委員)

感想として、高齢者の視点、障害者の人にはいろんな視点から考えていくことが大切と改めて感じた。性別に関わらず誰もが活躍できる社会の実現っていうところがとてもいいと思う。

成田市の男女共同参画がこれからどのように進んでいくか、また、今回の第5次計画の女性、男性といった性別だけではなく「自分らしく」の表記がいいと感じた。

(佐藤委員長)

45ページの成果指標一覧と、31ページからの各事業が結びついていると事業を進めるうえで目安になると考える。可能なら修正を。

(内田委員)

審議会について、市場取引委員会について令和4年は女性が0だったが、委員会に取り合わせたところ、4年後の今3人女性が増えている。何か意見を言えば増えるのではないか。充て職、専門職は動かしようがないが、事務局に訴えると女性が増える場合がある。

(村島副会長)

表紙について、うなりくんは見慣れているので変更できないか。

(事務局)

表紙について第5次計画は「ジェンダーレットプラン」とのサブタイトルもつけていることから、それをイメージできるように修正できればと考える。

現行の第4次計画は女性の参画拡大に重点をおいていたが、第5次計画では基本理念にあるように「多様性」に重点をおき、より社会に行き届くように位置づけをしている。

多様性はまだ社会の中で理解が進んでいないと考えており、次期計画ではそれを踏まえ、また委員の皆様からのたくさんの意見を可能な範囲で反映し、最後の調整を行ったうえで成田市として実効性のある計画となるようまとめていく。

6. 傍聴者

1名